



書評

[評者]

小杉 眞司

京都大学大学院医学研究科教授・医療倫理学・遺伝医療学

吉田 晶子

京都大学大学院医学研究科特定助教・ゲノム医療学講座、認定遺伝カウンセラー

遺伝カウンセリング ロールプレイ

段階的に学べるシナリオ集

三宅 秀彦 著

●B5変 頁112 2021年8月

定価：2,750円（本体2,500円＋税10%）

[ISBN978-4-8157-3025-3] メディカル・サイエンス・インターナショナル刊



遺伝カウンセリングを学ぶすべての学習者にとって、ロールプレイは重要な学びの場である。しかしながら、どのようにロールプレイに臨むべきか、また生かすことができるのかを十分に把握できず、戸惑うことも少なくないのではないだろうか。結果、ロールプレイ前のディスカッションが盛り上がりがない、勉強にはなったが大変だった、という感想になることをよく経験している。

本書は、京都大学とお茶の水女子大学で遺伝カウンセラー教育に携われてこられた三宅氏の経験を基盤に、認定遺伝カウンセラー制度委員会委員長として今後の展望も含めて執筆された充実したテキストとなっている。第1部では遺伝カウンセリングにおけるコミュニケーションスキル、ロールプレイの目標設定から、遺伝カウンセリング担当者の事前準備、クライアント役の準備、実施、フィードバックの方法、最後のまとめまで、ポイントを絞った形で記載されている。初学者がロールプレイ全体を把握するのに適しており、また経験者にとっても、自分自身の達成度を見直すことができる。そして、指導者やファシリテーターには、指導方法や議論の進め方の改善に役立つ視点が多数盛り込まれている。

第2部では、11分野のシナリオ集が紹介されている。特徴的なのは、著者の考案する「ルーブリック表」により、初級・中級・上級の目標がそれぞれのシナリオで定められている点である。学習者にとって目標が分かりやすくなるとともに、クライアント役やフィードバックをする観測者、ファシリテーターにとっても、それぞれの役割を果たすうえで重要な指標となるだろう。また、

シナリオ集は、遺伝カウンセリング担当者用とクライアント役用に分かれており、著者のいう「予定調和にならない」ための配慮がなされている。クライアント役用には、役にスムーズに入っていけるような演技のポイントも示されており、これによりクライアントの追体験やコミュニケーションのなかでの新たな発見がもたらされるものと考えられる。

第3部では、各シナリオの解説が簡潔にまとめられている。ただ、簡潔な中にもケースの狙いや展開、難易度アップのポイントが適宜含まれており、ロールプレイ学習の奥深さが伝わる内容となっている。

本書においては、遺伝カウンセリング担当者とクライアント役が織りなす偶発的な場面からの経験的な学びも重要であるとされている。しかし、それと同時にいかにロールプレイが緻密に考えられているか（考えるべきか）を伝えるものでもある。ロールプレイは、構造化された練習の機会であり、学んできた知識とスキルを総動員して、演技として発揮するとともに、振り返りにより、遺伝カウンセリングの内容を分析する力を養う場でもある。この分析力が実臨床の遺伝カウンセリングでの気づきや改善に重要と考えている。このロールプレイの緻密な狙いを知ることこそ、分析力を伸ばすことにつながると、本書を読んで改めて認識することができた。

ロールプレイは時間も、体力も、そして気持ちも、多くのものが注ぎ込まれるからこそ、まずは“ロールプレイ”自体が何なのかを学ぶことが近道であろう。本書はロールプレイに関わる全員に、有用な示唆を与えてくれるものと思われる。